

木造十一面観音菩薩立像(西方寺) 1 軀

木造十一面観音菩薩立像

もくぞうじゅういちめんかんのんぼさつりゅうぞう

分野／部門

有形文化財／美術工芸品[彫刻]

所有者

宗教法人 西方寺(さいほうじ)

所在地

大阪市住吉区遠里小野 5

紹介

法量:像高 105.3cm



木心を体内に込める一木造像で境内観音堂の本尊である。

通規の像容を示す十一面観音像で、瘦身の像である。腰の位置は高い。

わずかに体をひねり右足を踏み出す動きのある表現や、八角形为天冠台や素朴さを感じさせる彫技に特色が見られる。左は肩先から別材を寄せるが、右は手先まで根幹材から彫出し、内割り(うちぐり)はなく、古様な構造を示す。

衣文(えもん)の彫り口は浅く穏やかである。神木などの特別な材を用いた垂迹像(すいじゃくぞう)の可能性もある。

制作年代は平安時代後期から鎌倉時代と考えられる。

伝来の経過は不明だが、17世紀後半には既に西方寺にまつられていた。